

日 時：平成26年8月11日（月）19時～20時30分

場 所：岩館地区構造改善センター

対象町会：岩館

参加者：32名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○通学路の拡幅について （市民からの要望・質問）</p> <p>大坊小学校の児童の通学路の拡幅について、これまでも写真をつけるなどして要望をしてきた。県道であり、なかなか難しいこともわかるが、スピーディーに解決をお願いしたい。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・通学路についての要望は他の地域からも出ている。・確かにこの道路も狭いと思う。県でも順番があるので簡単に事業実施とはいかないと思うが、県の状況を見ながら対応していきたい。もう少し時間をいただきたい。
<p>○地域コミュニティ育成事業奨励金について （市民からの要望・質問）</p> <p>地域コミュニティ育成事業奨励金でとても助かっている。当町会では年会費として1万円いただいているが、当町会は約100世帯と少ないことに加え、近年は冠婚葬祭による集会所の使用料収入もなくなっており、町会運営が厳しい状況である。今後も続けていきたいと思っている。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・市としても、それぞれの地域を支援していくため、今後も継続していくつもりである。・算定の仕方は検討していきたいと思っている。・春の行政委員連絡会議の場で、町会の運営、街灯の電気料、センターの運営などで困っているということを聞き、市内の防犯灯をLED化することを決断した。・明るくなることで防犯につながるし、電気料が少なくなることや長寿命化により、町会の負担軽減になる。・今年1年で調査をし、来年で工事を完了させたいが、4073箇所もあるため、遅くとも再来年までにすべての街灯をLED化することを進めさせていただいている。
<p>○中心部との格差について （市民からの要望・質問）</p> <p>少子化に伴い、大坊小学校のプールがなくなったため、プールは中心部まで行かないと</p>

利用できない。このように、中心部から離れた地域が不便になっていると感じるので、いい方法はないものか。例えば長期の休みにバスを出すなどの方法も考えられないか。

(市の回答)

- ・旧平賀地域に施設などが集まっているが、離れた地域をどうするかは非常に難しい問題である。
- ・旧尾上、旧碓ヶ関村からも同じような声が聞かれているところである。
- ・バスを出すにしても、行事ごとに出す方がいいのか、どのようなやり方がいいのか検討が必要である。
- ・私もいいアイデアを持っていないので、何かいいアイデアがあれば教えていただきたい。

○議員による地域との懇談会について

(市民からの要望・質問)

今回の懇談会のように、議員のみなさんもグループを作って地域に出向き、地域の声を聞く機会を設けてはどうか。

(市の回答)

- ・議会のことであるので、私からは何も言えないことである。
- ・全国で議会基本条例を作っている市町村がある。当市でもそのような動きがあった場合に、そういう活動をすることも考えられる。
- ・今後自主的にそういった活動をする方も出てくるかもしれないし、期待をしたいと思います。

○街灯の設置について

(市民からの要望・質問)

石郷のカーブの所に街灯がない。子供たちが通学に使っており、危ないので設置してほしい。

(市の回答)

現場を確認します。街灯を取付けることのできる柱があるか、対応できるならば対応したい。

○河川敷公園の名称について

(市民からの要望・質問)

通称「大坊河川敷公園」は地番も岩館だし、元々の地権者も岩館であるのに、なぜ大坊と呼ぶのか。

(市の回答)

- ・県からその名称で引き継いだものであり、その名称となったいきさつは不明である。

・改めて確認はしてみようと思うが、ご了承願います。

○提案箱に入れた意見について

(市民からの要望・質問)

ひらかドームの入口にある提案箱に以前に意見を入れたことがある。その後どうなったものか。

※要望内容の概要

ランニングコースを走っていると出入口から入ってくる人や、ソフトボールの道具入れのドアが開きっぱなしになっていたり、中から出てくる人とぶつかりそうになり危ないので改善してほしい。また、正月なども利用できるようにしてほしい。

(市の回答)

- ・連絡先を書いてある意見に対しては、協議結果をお知らせするようにしている。
- ・ひらかドームはいろいろな目的の利用者が同じ出入口を利用している状況である。事故防止については、ランニングコースを走っている人ではなく、入口から入る人が気をつけてください。という形で目立つように注意喚起している。
- ・月曜日が休館日であるのは、グラウンドの養生のためである。年末年始の休館は職員の体制の問題であるので、今後指定管理者制度で運営が民間に移行すれば年末年始の開館も可能だと思います。
- ・ボランティアで管理するという意見もありましたので、今後検討させていただきたいと思います。

○100歳のお祝いについて

(市民からの要望・質問)

100歳のお祝いとして、以前は祝い金が出ていたと思うが、なくなったのか。

(市の回答)

- ・祝い金はだいぶ前に廃止となり、今は表彰状と記念品を差し上げております。

○年金からの天引きについて

(市民からの要望・質問)

80歳近くなるが、後期高齢者医療の保険料は、今後も年金から天引きされるのか。

(市の回答)

- ・介護保険料や後期高齢者医療保険料は、年金からの天引きとなります。

○融雪溝の整備について

(市民からの要望・質問)

岩館地区に融雪溝を整備してほしい。近隣に国道があり、ガソリンスタンドに寄る大型車が近道として集落内を通るので、少しでも道路の幅を広くするためにも整備してほしい。

(市の回答)

- ・融雪溝は順を追って整備している。整備にあたっては、①水源があるかどうか ②流れ出る場所があるかどうか ③地域で管理できるかどうか などの条件があり、岩館地区の状況を見てみないとわからない。

(市民からの意見)

- ・かつては大型車が多く通っていたが、警察に大型車が入らないように要請したところ、今は入れないようになっている。たまに入ってくる大型車もあるが、一定の効果はあったものと思っている。

○小学校の統合について

(市民からの要望・質問)

少子化が進んで児童数が減っているが、小学校の統合の話はどのような状況か。

(市の回答)

- ・子供たちが少なくなり、学校規模を維持できなくなった時に、教育効果を考えた場合、複式でいいのか。学校では勉強だけではなく社会性なども身につける場であると思う。複式にもいい所はあると思うが、規模の大きい所で社会性を身につけながら学ばせたいという考えもある。
- ・様々な考えがあると思うが、現在、大坊小学校については統合の話は聞いていない。
- ・現在、大坊小学校児童数は83人である。市の推計では、平成30年度(61人)、平成35年度(55人)、平成40年度(45人)、平成45年度(38人)となっている。
- ・現在の制度は、2学年で16人以下となれば複式となるが、大坊小学校では平成30年に複式となる学年が出る可能性もあると予測している。
- ・現在、統合の議論はないが、このような推移であることは頭に入れていただき、この地区の子供たちをどうやって社会人まで地域で守っていくか考えていくことが必要だと思います。
- ・いつかは統合についての議論も話題として持ち込む可能性はあります。

○除雪について

(市民からの要望・質問)

大きい道路にはロータリー車が来るが、我が家の前のような小さい道路には入ってこないの、なんとかしてほしい。また、あまり雪が降っていないのに除雪車が出動しているようだが、指導してもらえないか。

(市の回答)

- ・雪が降っていないのに除雪車が出動している話は他の地区からも伺っている。
- ・出動の判断は業者により、「今は積もっていなくても、朝までには積もるだろう」と予測して出動する業者もいる。今回の意見を担当の土木課に伝えます。
- ・ロータリーについても、必要なところは幅出しをしていく。全ての道路をやることは難しいが、優先度を決めて行っている。今回の意見を担当の土木課に伝えます。

○地域コミュニティ育成事業奨励金について

(市民からの要望・質問)

地域コミュニティ育成事業奨励金の目的について確認したい。

(市の回答)

- ・平成21年度から始まった制度である。先ほど市長から継続の話がありましたが、各町会からも大変好評をいただいている。
- ・これは近年、冠婚葬祭等の行事がなくなり、集会所の使用料収入がなくなり町会運営や集会所維持の財源が不足しているという要望に応えるために実施したものです。
- ・また、町会運営や施設の維持管理の他に、町会コミュニティをもっと盛り上げていただきたいという思いから実施したものです。

○地域コミュニティについて

(市民からの要望・質問)

岩館町会でもいろいろなイベントをやっている。夜宮でも店が来なくなり大変さびしくなったが、夏祭りでは消防団などが金魚すくいなどの店を出したりして盛り上げている。子供たちの集まりが悪いと言われている中で、岩館町会はよくやっていると思っている。

コミュニティづくりは心の問題でもあり、市長が役割分担のことを言ったが、とてもいいと思う。自分でできることは自分でやろうという気持ちがコミュニティにつながるものであると思う。

ただ、行事ではうまくやっているが、行事ではなく、日常的なコミュニティ活動の面で足りないのではないかと思う。

行政の担当者があるならば、窓口を設けてコミュニティ活動の奨励をしていただき、私たちも日常からコミュニティを高めていきたいと思う。

(市の回答)

- ・日常的なコミュニティ活動は、かつては公民館活動の中でやってきたと思うが、今後どのようにしていくかは市としても課題である。
- ・現在、当市ではコミュニティ助成金を出しており、地域が独自に地域づくりをやっている。
- ・他県に行くと地域自治組織を作ってやっているところもある。先日職員を研修に行かせ

たが、地域自治組織は小学校単位で作っているところが多く、複数の町会で構成されている。その形が平川市に合うのかどうかは検討しなければならない。

- ・小さな町会単位のコミュニティがいいのかなと考えることもある。将来的に人口が減った時を見据えた対応を考えていかないといけない。
- ・担当窓口については行財政改革で人を減らしており、担当を作ることができるかは厳しいところである。
- ・それでもコミュニティ活動は大切なことであるので、どういう方法がいいのかは勉強させていただきたい。

○リーダーの育成について

(市民からの要望・質問)

コミュニティづくりに向けて、リーダーの養成の機会（館長の研修など）が不足しているような気がするが、市の考え方を聞きたい。

(市の回答)

- ・どのようなコミュニティづくりを目指すのかを町会の中で話し合ってもらい、その結果、市がどういう形で応援をすればいいのかを示していただければ、市としてもやりやすい。
- ・コミュニティの研修はここしばらくやっていなかった。昨年度からコミュニティ講座というものを実施しており、今後も工夫して進めていきたい。

○公民館について

(市民からの要望・質問)

公民館とは何か。公民館というからには「館（たてもの）」なのではないかと思う。ここも公民館ということになっているが、「岩館地区構造改善センター」であり、公民館ではない。私は、町会は一般行政を、公民館はコミュニティを担うという風に考えているが、この考えは間違っているか。

(市の回答)

- ・その考え方で間違っていない。
- ・公民館は社会教育法の中で、市町村が設置して社会教育活動を行う機関という位置づけである。
- ・旧平賀町独自のものであるが、平賀地域の自治公民館については「公民館類似施設」と呼んでおり、町会の建物を利用して行う社会教育活動の機能を「公民館」と呼んでいる。

○ねふたについて

(市民からの要望・質問)

最近のねふたは、合同運行のために中心地に集められてしまい、地域で見られる機会が

減っていると思う。地域で見る機会を多くするため、あまり合同運行で縛らないでほしい。

(市の回答)

- ・ねふたについてはたくさんの方の考え方があると思う。
- ・昔は自分たちでねふたを作って村の中を回って歩いたものである。
- ・村の中にいくつもねふたがあったが、それを1つにまとめて運行するようになり、その後合同運行が始まって今に至っていると思う。
- ・合同運行は地域をアピールする場にもなっていると思う。
- ・集落によると思うが、合同運行以外の日はそれぞれの集落を回って歩いているのではないかと思う。
- ・今年は32台のねふたが出陣した。初日は市役所から駅までの約400メートルに2万5千人の人出があった。
- ・南九州市のねふたは800メートルの沿道に4万人が九州一円から集まったようだ。
- ・ねふたまつりはいい意味での平川市の発信力になっており、これからも活かしていきたいと思っている。
- ・冬のねふたも5年という区切りだが、これからどうしていくかも検討していきたい。
- ・すべての日程を拘束するわけではなく、合同運行は2日間だけであるのでご理解願いたい。

○場所取りのガムテープについて

(市民からの要望・質問)

駅前に場所取りのガムテープがたくさん貼られているが、後始末はどうしているのか。

(市の回答)

- ・場所取りのガムテープは本当に困っている。
- ・実行委員会の方たちが剥がしているが、また貼られてしまい、いたちごっこである。
- ・モラルを守ってもらうしかない状況である。

○学童保育について

(市民からの要望・質問)

学童保育の対象が6年生までになると聞いている。保育所で行っている学童保育もあり、場所が非常に狭い。そういった現状を確認していただき、よろしく願いたい。

(市の回答)

- ・6年生まで拡大されるが、実際には部活動などに加入する児童も多く、どのくらいの利用ニーズがあるのかを調査しているところである。調査結果をみて検討していく。

○まちづくり懇談会について

(市民からの要望・質問)

これまで、こういった懇談会は学区単位などで行ってきたため、質問もなかなかできなかった。今回、このようにたくさんの質問が出たのも、町会単位で開催してくれたからだと思う。

40箇所ということで、すべて回るには1年近くかかると思うので、来年も再来年も続けるのは大変だと思うが、折を見てまたやってほしいと思う。

(市の回答)

- ・今年度は市内40箇所（碓ヶ関3箇所、尾上10箇所、平賀27箇所）で懇談会を開催している。ほぼ毎週月曜日に開催しており、40箇所回ると3月までかかる予定である。
- ・このような形で開催しているが、部長の皆さんには、日中の業務に加えて夜間の懇談会も協力いただきご苦勞をかけているが、今後のやり方をどうすればいいかは1年間やってみて決めていきたい。
- ・できれば多くの方と触れ合って意見交換をし、今の市の政策などを理解していただくためには小さい単位の方がいいと思うが、小さければ回数も増える。これからも懇談会を重ねていくなかで、来年どうするかを考えていきたい。
- ・地域の課題はたくさんあると思うが、自主財源の少ない当市は、国や県の支援をいただきながら進めていかなければならない。
- ・人口が減っていく中での地域づくりは、今の段階から取り組んでいかないといけない。これからもみなさんの意見を伺いながら進めていきたいと思う。本日はありがとうございました。